

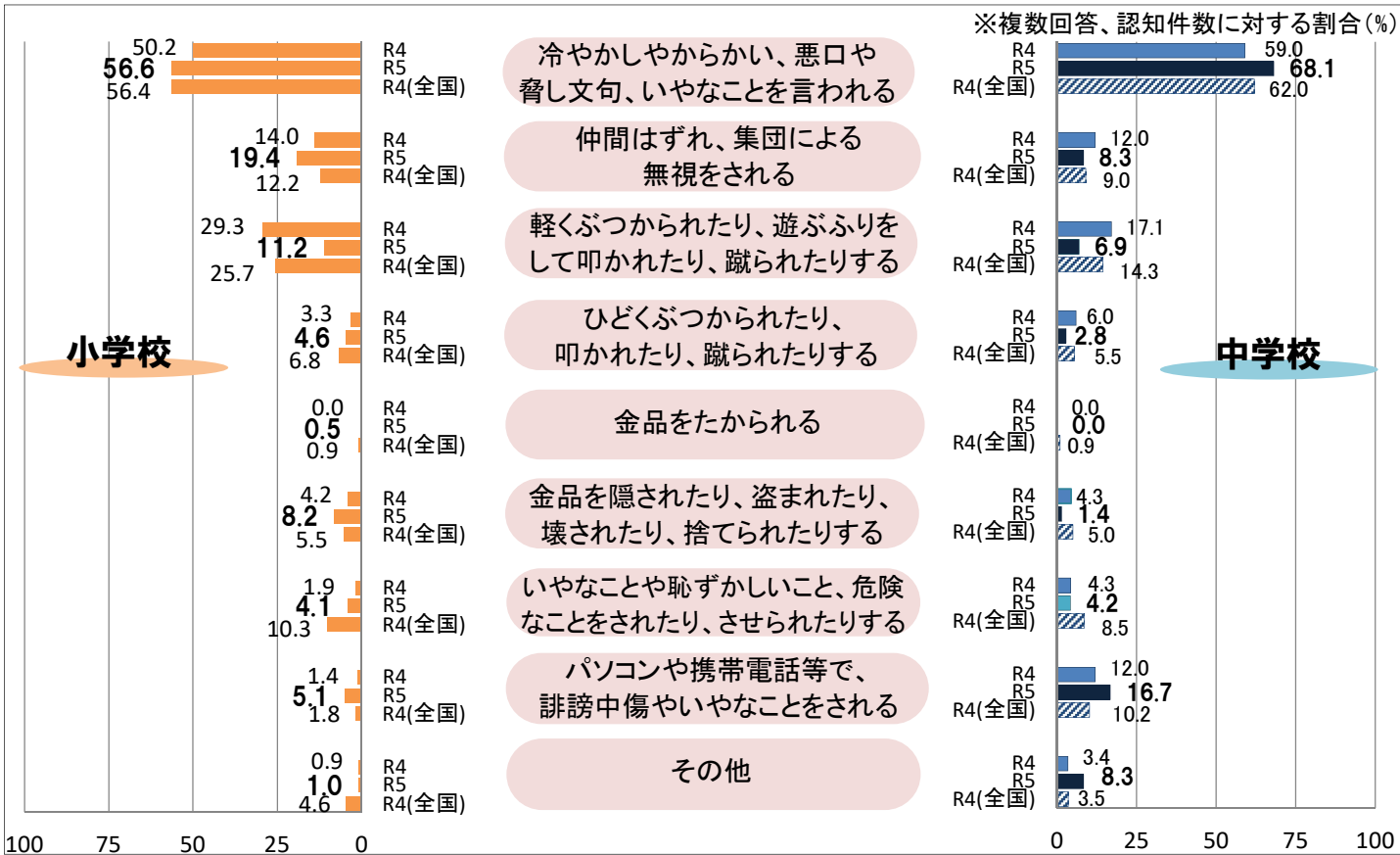
東海市のいじめの状況等

資料1

1 いじめの件数・解消状況

年度	小学校										中学校							合計	
	認知 件数	内訳						解消済	解消に向けて 取り組み中	他校への転 校、 退学等	認知 件数	内訳			解消済	解消に向けて 取り組み中	他校への転 校、 退学等	認知 件数	解消済
		1年	2年	3年	4年	5年	6年					1年	2年	3年					
R1(2019)	120	13	25	16	12	39	15	70 (58.3%)	50	0	175	82	64	29	139 (79.4%)	36	0	295	209 (70.8%)
R2(2020)	256	53	42	46	40	36	39	224 (87.5%)	32	0	160	97	37	26	133 (83.1%)	27	0	416	357 (85.8%)
R3(2021)	424	62	57	84	103	58	60	382 (90.1%)	42	0	123	64	45	14	101 (82.1%)	22	0	547	483 (88.3%)
R4(2022)	215	30	40	42	36	39	28	193 (89.8%)	22	0	117	62	34	21	103 (88.0%)	14	0	332	296 (89.2%)
R5(2023)	196	26	33	35	39	30	33	169 (86.2%)	27	0	72	35	20	17	57 (79.2%)	15	0	268	226 (84.3%)

2 いじめの態様



【いじめ防止等対策委員会の意見等】

○市内中学校でもネットを使用した誹謗中傷や嫌がらせが後を絶たない。また、令和5年度(2023年度)の中学校2・3年生のアンケートでは、休日5時間以上、スマートフォンを使用している生徒が50%、平日でも30%近い結果に大変驚いている。

○家庭でスマートフォンの使い方のルールが決まっている生徒が35%いる中で、ルールが全くない家庭もある。

○中学生では、様々な判断が難しい中で、トラブルが起こっているのではないかと。今年度、保護者向けに情報モラル講座を開催したが、その後もネットでのトラブルが起こっている状況である。

○SNSのトラブルや情報モラル等に関して、どこまで生徒や保護者に対して介入してよいのかの判断が難しい。

○どのような言葉が誹謗中傷になるのかを子どもたちに示していくことも重要である。

○短い言葉で人と繋がる際に言葉の読み間違いをしたり、深く考えないで噂を広めてしまったりして誤解を生み、トラブルになることが考えられるため、子どもたちにアンケートをとることや、小学校の学校保健委員会で注意を促すこと等を実施していきたいと考えている。

○中学校では、小学校の学級担任制とは違い教科担任制のため、多くの教職員が生徒と関わりをもつことができる。担任をもっていない学年主任が教室を回り、生徒の様子をよく観察するように心がけている。そのため、学年主任が普段と様子が違う生徒に声をかけると、生徒が悩みを相談することがある。

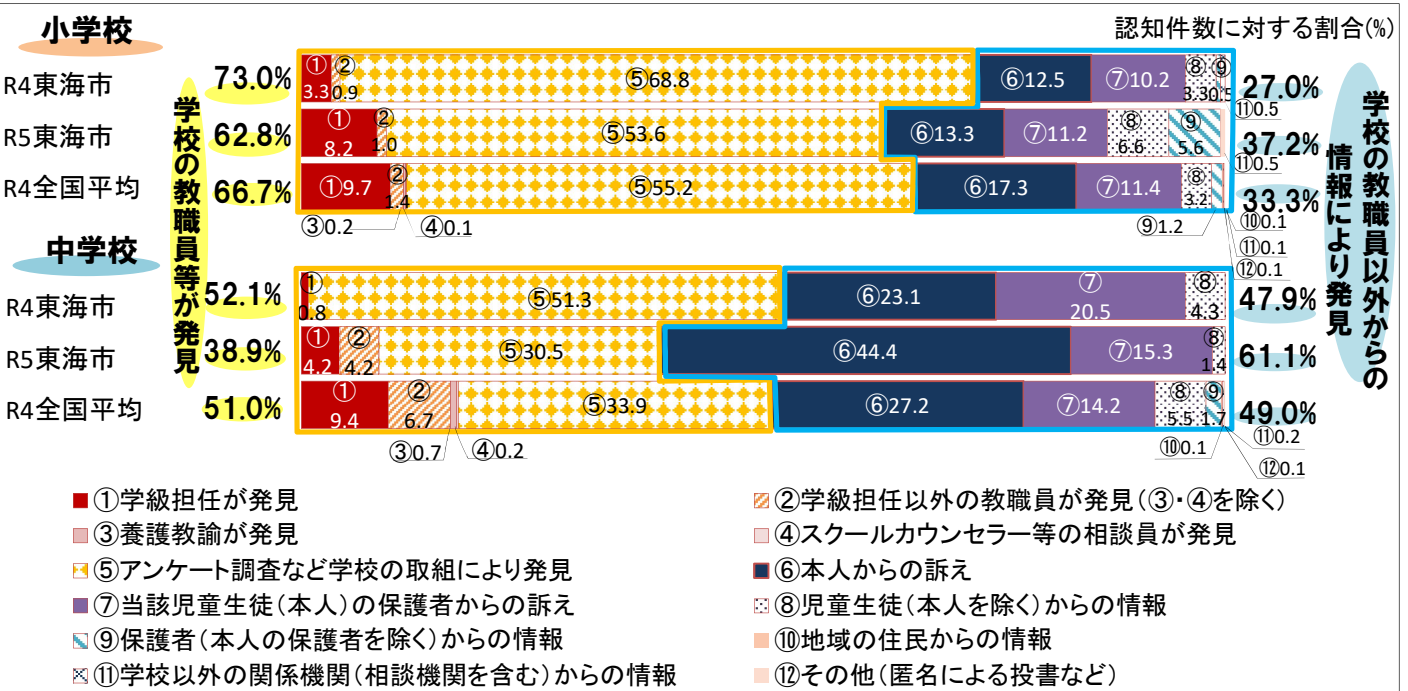
○一人ではなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなども含め、多くの教職員等の目で子どもたちを見ていくことが大切である。

○いじめの認知件数が増えるということは、大人と子どもの対話がしっかりとされているのではないかと捉えている。

○小学校では、教職員が何か気が付いた時に子どもたちの訴えを言語化していく必要があるのではないかと。大人や専門職の介在が必要だと感じる。

○学校と警察や児童相談所など関係諸機関と一緒に考えていく形が進み始めている時期である。

3 いじめの発見のきっかけ



4 いじめられた児童生徒の相談の状況

